

## のぎく会と「農の生け花」活動

浜中 洋子

私は、昭和43年の春に浜中家に嫁ぎ ました。

4年目のある日、近所の方から「農家婦人の会が出来るので洋子さんも入ってください!」と、誘われました。しかし、私はまだ出産や子育て、家事や畑仕事など毎日が忙しさと辛抱の真っただ中で、とても入会できる状況ではありませんでした。でも心の中では「仲間になりたい!!」という希望が渦巻いていました。「名前だけですがよろしくお願いします。」と言ってしまって、あとは幽霊会員となりました。

それから十数年の月日が流れ、昭和61年に文集「のぎく」が発行されて私も一冊求めました。この文集には多くの方の投稿があり、どの文も興味深く素晴らしい本になっていて、川口地域の年中行事、住まいの昔の風景、母や姑からの教え、結婚式の様子、漬物や昔話、俳句等、個人の思いが様々な角度からぎっしりと詰まっていました。他地域から嫁いだ者には良い教科書になりました。

やがて、やっとのぎく会活動に参加 できるようになったのが舅、姑を見送っ た後の平成6年のことでした。

この頃には、農協を「JA」と呼び、八 王子では6農協が合併し、婦人部が「女 性部」に変更になり、のぎく会も女性部 内での「営農部」と名称が変わっていま した。そしてある会議の中で、女性部 が毎年行っている作品展に営農部とし て「農の生け花」を出品したらどうかと、 普及センターの池田先生が提案して下 さったように記憶しています。するとこ の話題が盛り上がり、私も日本農業新 聞で関心がある記事だっただけに直ぐ に飛びつきました。

この年初めて取り組んだ展示が素晴らしくて胸が躍りました。翌平成7年からは毎年「春よ来い」、「はなもち」、「節分」などタイトルを皆で考えて決め、器にはじょうごや酒樽等農具や民具を用いて出展していきました。

平成10年に「作品を日本農業新聞に投稿してみて!」と、河井さんの声に気を大きくして恐る恐る出してみました。すると、この投稿により「農の生け花」創始者の横井友詩枝先生が八王子の川口地区へおいで下さる、という思いがけない機会を得ました。その上、これをきっか

けに全国の「農の生け花愛好会」に仲間 入りできる切符もいただくことができま した。

この年の9月、普及センターの園田先 生が私達の活動を一歩前に進めるチャ ンスを作ってくださいました。立川のア イムで開く「農家女性フォーラム |の演壇 に作品発表したことです。ここでは何よ り横井先生が、雨天にも拘わらず杖を つきながらご指導下さったことが忘れら れません。ご不自由な身体の先生に付 き添って中央線でお連れ下さった山本 様にも感謝しております。

平成12年2月には「関東東海花の展覧 会」が池袋のサンシャインで開催された 折、会場に大きな作品二点を展示させ ていだたきました。1年掛かりで構想を 練り精一杯の作品にしました。この企 画も普及センターの方々、横井先生を

お連れ下さった岡本様、材料を運んで 下さったIAの糸瀬さん、皆様に大変お 世話になった展覧会でした。

現在まで多くの作品や仲間づくりに 挑戦し20年が過ぎました。この間「農 の生け花愛好者 全国の集い の開催を 「夕やけ小やけふれあいの里」と東京農 大「食と農の博物館 | にて東京グループ として2回実現致しました。これには日 本農業新聞、IA八王子、東京農業大学、 元IA中央会の大竹様、元東京農大故塩 倉高義先生、他皆々様の大きな応援が 支えとなりました。ありがとうございま した。

これからは、農業で働く若い世代に も、作物の美しさを伝えていきたいと考 えています。



